

ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.592

2023年12月

10月例会発表

400年後に明らかになった毛利家の秘密
「周姫(かねひめ)～二の丸様の生涯」
吉田 泰義

1. 毛利輝元と周姫の出会い



天正元年 (1573)

兄玉元良の長女、安芸国豊田郡竹仁荘（現在の福富町下竹仁）に誕生。

天正10年 (1582) 毛利輝元30歳

兄玉氏阿良井城に立ち寄り周姫10歳を見初める。

天正12年 (1584) 輝元32歳、周姫12歳

輝元は周姫を側室に欲したが元良は拒み、周防国徳山の杉元宣の正室として嫁がせた。

2. 拉致された周姫



天正15年 (1587) 輝元35歳、周姫15歳

輝元の家臣佐世氏は杉山氏に命じ周姫の乳母久芳の局と策して広島へ拉致した。

天正16年 (1588) 輝元36歳、周姫16歳

建設中の広島城二の丸に住ませ「これはご実家兄玉一族のためでもあり従え…」との言葉も耳に入らず「わたしをだました杉山をお恨み申す」と黒髪元結を切って輝元を拒み続けたが、すると見せしめに実家の兄玉家領地が取り上げられ嫌がらせを受けた。

新春登山参加者募集

日 時 1月12日(金) 10:00～
登山場所 二神山(二神山駐車場集合)
※下山後、「ちろりん」にて新年互礼会実施
参加希望者は12月20日(水)までに連絡してください。
申込先 福村さん 080-2912-6741まで

3. 周姫を愛した杉元宣が殺される



天正17年 (1589) 輝元37歳、周姫17歳

杉元宣22歳は妻が拉致されたことを九州の戦地で知らされ、輝元殿は主君とは言え許せぬ、豊臣秀吉天下様に訴えて決着付けると決意9人の家来を連れ船出したが、風雨で海は荒れ徳山湾の船隠しで天候の回復を待っていたところ、隆景の家来に追いつかれ切りあいになり、大阪行きを阻まれ元宣と従者は全員殺害された。輝元に小早川隆景は「殿のお気持ちを聞き、元宣は妻女周姫に離婚申し渡しに行く途中、嵐のため遭難して相果てました」と嘘の報告をしている。

4. 杉元宣の亡霊



毛利の船が徳山の沖を通ると海が荒れるようになり、徳山藩主毛利元治が江戸へ行くため港を出ると船は故障、藩主は高熱が出たりして杉元宣の祟りだと思い、菩提寺興元寺で祈祷し何とか治まった。杉元宣の亡霊が夜な夜な墓を抜け出し、興元寺の石段を駆け下り、馬で城下を駆け回ると噂が立ち、興元寺の門は開かずの門とされ、開かずの門とされた興元寺石段の前で女人が泣いているなど亡霊伝説も流れた。

5. 毛利輝元と小早川隆景

天正18年 (1590) 輝元38歳、二の丸18歳

実家の領地は没収され、父も亡くなり、これ以上意地は通せないと諦め側室になり従った。

12月例会のご案内

日 時 12月9日(土) 13:30～
場 所 東西条地域センター
研究発表 「乗り鉄一鈍行で行く城巡り」
宋戸元文氏

すると輝元は児玉家の再興を許し、広島の子に3万石、兄の景唯も長門国の綾木村に2千石与えられた。輝元は小早川隆景に、人妻を拉致するなど人の道に外れたことと手厳しく叱責され、正室南の方の反対で、二の丸様を城に置けなくなり、外屋敷に住まわせて会っていた中で二の丸様は懐妊、しかし毛利家内の騒動を恐れ、秘密裏に家臣で長門の領主の財満氏に預けられ「生まれた子が女ならそちに遣わす、男なら殺せ」非情な密約がなされた。

6. 二の丸様が財満屋敷で男子を出産



天正19年（1591）輝元39歳、二の丸19歳

財満氏屋敷で生れたのは男子。財満氏は主君の子を殺せないと小早川隆景に相談、小野の地で養育し時を待てと言われ秘密裏に養育。

文禄元年（1592）輝元40歳、二の丸20歳

子どもの誕生を祝ってくれたのは兄や従姉。兄の児玉景唯は長門国綾木の領主、従姉は大内氏の流れの明林寺第3代住職心了法師の坊守。幼子は松壽丸と名付けられ小野財満氏屋敷で育っていた。

文禄4年（1595）輝元43歳、二の丸23歳

松壽丸は広島城に初登城した日に広島城で生まれたことにされ世継ぎと認められ、この事は毛利家と財満家との間で、400年にわたり秘密事項とされていた。

7. 関ヶ原の合戦後も悲しい日々



慶長5年（1600）輝元48歳、二の丸28歳

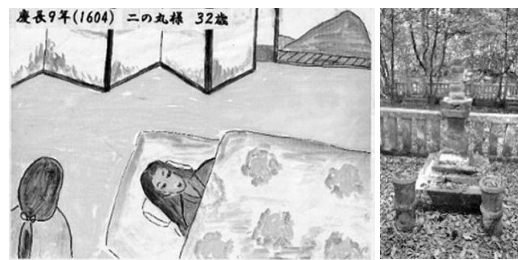
関ヶ原の合戦・輝元は大阪城に居て関ヶ原へは秀元が大将で出陣したが吉川氏の裏工作で戦わず、小早川秀秋が東軍の勝利に貢献したが、毛利家は本領安堵の口約束は無視され、中国地方12か国から山口の2か国に移封、萩藩初代藩主の秀就は江戸へ人質、隠居した輝元が実権を握ったまま出家し秀元が藩主を代行した。

二の丸は慶長5年（1600）竹姫を、慶長7年（1602）に二男の就隆を京都の伏見で出産しているが、生まれてすぐ引き放されている。

慶長8年（1603）輝元51歳、二の丸31歳

二の丸は城に入れてもらえず糸米の覚皇寺の飯屋に移され寂しい日々を送っていた頃、身の回りの世話をしてくれていた雪乃が突然、気が狂って暴れまわり、「二の丸様は誰のお陰で輝元様の奥方になられたと思うのか〜…」周姫を拉致した久芳の局の亡霊が乗り移ったのか、雪乃は明木村の古井戸に投げ込まれ蛇攻めにされ殺されたという亡霊伝説も残っている。

8. 二の丸様永眠



慶長9年（1604）輝元52歳、二の丸32歳

身も心も弱り病の床で「女は誰も顔や姿など容姿の美しさを誇りとするものですが、一生を地味に暮らすことこそ誠の幸福です。私は少し美しかったので夫は殺され、一家一族を思い仕方なく側室になりました。南の大方からは嫉妬されて、子どもは手許に置けず、実に情けない人生でした。殿を南の大方様にお返しして、元宣さまにお詫びがしたいと言い残して、32歳の若さで生涯を終えられ亡骸は山口古熊西方寺に葬られた。

寛永元年（1624）二男の就隆が下松に周慶寺と墓を建て守り伝え、明治6年（1873）山口香山公園の毛利家墓所の裏山に移され現在に至っている。

9. 400年余りの時を超えて建立された碑

平成26年（2014）・宇部市小野の財満屋敷跡に顕彰碑、平成28年（2016）・周南市徳山の興元寺に面影絆の像が建立される。

以上、10年来の研究や探訪成果、渡部和代氏「財満氏研究」、内田喜美子氏の紙芝居、平山智昭氏「二の丸残照」著書などに多大なるご協力頂き感謝申し上げます。

9月臨地研修

「みよし古墳めぐり」～午後の部～

大森 美寿枝

談笑しながらの昼食を楽しみ午後からの見学地「矢谷墳丘墓」へ出発しました。風土記の丘から車で5分ぐらいの所にある三次工業団地の

中で小高い丘の上にあります。

①《矢谷墳丘墓（四隅突出型）》

矢谷墳丘墓は三次市の南側、標高230mの丘陵上にあり昭和52年～53年度の三次工業団地造成事業に伴う発掘調査で発見されました。

四隅が突き出した独特な形の墓、四隅突出型墳丘墓を二つ合体したような特異なもので周囲に溝を廻らせ斜面には石を貼り付けています。全長18.5m、弥生時代後期の墳丘墓としては中国地方最大規模です。墳丘上の埋葬施設は11基発見されおり、規模の大きな中央の埋葬施設からは碧玉（へきぎょく）製管玉、ガラス製小玉、鉄製ヤリガンナ、刀子（小刀）片等が出土、土器は山陰地方の鼓形器台、低脚杯などが、墳丘の周囲から吉備地方の特殊器台、特殊壺が多く出土しています。出土品は弥生時代から古墳時代への移り変わりを明らかにする重要な考古資料として平成6年（1994）に国の重要文化財に指定されています。

午前中に見学したみよし風土記の丘に展示してあった特殊器台、ガラス製小玉等多くの出土品は古墳時代前に三次の地の利を活かし吉備と出雲、両方面の人たちとの交流を示す貴重な文化財です。しかし、小さなローマ帝国産ガラス玉がよく発見できたなどと思います。シルクロードを通り中国山地にたどり着いたことに神秘を感じます。墳丘墓のある丘からは、広い三次盆地を眺めることができます。墳丘墓に眠っている古代の人たちも2千年もの間、三次盆地の移り変わりを眺めていて、最近は騒々しくなったなど思っているのではと思います。古代の人たちに思いをはせながら次の見学地「照林坊」へ向かいます。

照林坊は三次のシンボル、江の川に架かる赤いアーチ形の橋（巴橋）を渡り旧道を少し入ったところに建っています。この度は多忙にも関わらずご住職にお寺の由来などについてお話をいただき、また、客殿に向かう渡り廊下を通り庫裏まで案内をして下さり、近隣では見ることが出来ない江戸時代の建物を見学でき感謝です。再度、ゆっくりとお参りしたいお寺です。

②《明鏡山 照林坊》

山号・明鏡山 寺号・照林坊

開基：明光上人

鎌倉時代建暦2年（1212）

明光上人は宗祖親鸞聖人の弟子、関東六老僧の一人。念仏の経を広めるため鞆の浦に着き、山南に（福山市沼隈町）照林坊を建立し、代替わりをしながら折々に移転（備後国御調郡八幡辺・安芸国高田郡原田・舟木）をします。天文

4年（1535）親鸞聖人の御真影安置を許される等本山に順ずる扱いとなり中国西国の中本寺とも称されました。石山難題の際は毛利を味方につけ、芸備雲石の末門百余寺を引き連れ兵糧米の運送で功があり、蓮如上人の孫娘が輿入れされ、また、文禄・慶長の役では九州へ陣中見舞に向かう門主が二夜宿泊しています。慶長7年（1602）備後国三次の地に移転し、時を同じくして毛利の萩への退転があり、その後広島に入った福島正則の弾圧に遭い、寺は存亡の危機にたたされました。福島失脚後は浅野支配の下で、三次は浅野藩分家となり、末寺の多くが広島別院に移り、力を弱め現在に至っています。

本尊：阿弥陀如来

宗派：浄土真宗本願寺派

国登録有形文化財の照林坊

（平成23年7月23日登録）

高い天井と、11間四面もある大規模な本堂、天井に描かれている絵は江戸時代に描かれたものを修復しながら守られており、どれ一つとして同じものが無く迫力と華やかさに圧倒されます。その中に兒玉希望の作があるとか？三次に移転し400年以上、現住職は23代明山晃映氏で、脈々と受け継がれたお寺の歴史を守られています。

本堂

嘉永5年（1852）建立

昭和33年改修

- 外陣（げじん）は一般の人々がお参りする場所。
- 内陣（ないじん）は本尊を安置している場所。
- 本尊から向かって右側脇壇に浄土真宗の宗祖「親鸞」の絵像、左側に本願寺8世「蓮如上人」の絵像を掲げる。
- 左右の余間には七高僧や聖徳太子の御影などを奉懸し、御文章箱を置く。
- 内陣の天井及び壁画、外陣の天井絵は江戸時代に描かれたものを門信徒の奉仕作業により修復されている。
- 本堂周囲には勾欄を巡らせた広縁、軒先には雪見柱を立て、雪見縁を廻している堂々たる本堂。
- 本堂の正面階段上に向拝を付設。

経蔵

宝暦2年（1752）建立

明治45年（1912）改修

- 経典や経文を収蔵するお堂。
- 本堂の東北に南面して建つ、方3.8mの土蔵造、宝形造棧瓦葺きで鉢巻上に台輪を置

き出三斗組とし、中備に臺股をかざる。軒は1軒繁垂木、内部は1室の板敷で、格天井を張る。見ごたえのある組物、臺股彫り物などが各所に配されている。

鐘撞堂

延享元年（1744）建立
平成6年（1994）改修

- 本堂の東面に位置する。切石積の基壇に建つ桁行1間、梁間1間の吹き放ち鐘楼。入母屋造棧瓦葺、礎盤に粽付き円柱を内転びにたて、貫や台輪で固め、尾垂木付二手先斗きょうを組み、柱間中央にも斗きょうを置き、その間に臺股を飾っている。二軒繁垂木。近世建立の良質な鐘楼。

山門

寛文5年（1665）建立
昭和中期改修

- 本堂の前方に位置する。間口3.3mの四脚門。切妻造銅板葺で正・背面に軒唐破風が付いてある。組物は支輪付の出組で、正・背面は詰組に配す。二軒繁垂木、格天井を張り、両開き板戸をたてる。線形は複雑で、絵様も繊細で手がこんでいる建物。

客殿・渡り廊下・庫裏

- 客殿：昭和9年（1934）建立
昭和61年（1986）改修
正面に唐破風造玄関を構えて、奥にお成りののが建立されている。
本願寺門主の巡教の際に整備された良質な殿舎。
- 渡り廊下：江戸時代後期建立
庫裏へとつながる渡り廊下は鐘型の窓が抜かれた壁を境に、僧侶と一般の人が通る場所を分けられている。
廊下からは客殿と日本庭園を見ることができ歴史を感じます。
- 庫裏：享和元年（1801）建立
本堂の後方に位置し、北・東面に下屋を付けてある。桁行22m、梁間14mの大規模な庫裏。正面に土間を設け、東を大戸口、西に勝手口がある。正面の土間の広さと高さ、力強い大きな梁組に見とれてしまいました。

大規模な本堂、山門、鐘撞堂、経蔵、庫裏、渡り廊下、客殿とそれぞれの建物の配置が江戸時代から変わってなく、江戸時代の人も今と同じ山門を通り、お堂を見上げお参りしていたかと思うと感慨深いものを感じます。

名残惜しい場所ですが照林坊を後にし、最後の見学地「寺町廃寺跡」に移動しました。馬洗川に沿って車で15分位の田園地帯の中にあります。

③《史跡寺町廃寺跡》

寺町廃寺跡は、飛鳥時代末期に建てられ平安時代まで存在したと考えられる、古代地方寺院です。平安時代前期に編集されたわが国最古の仏教説話集「日本霊異記」に記されており「百済が乱れた時、備後の国三谷郡の大領が百済を救うため（白村江の戦い）現地へ派遣されることになり、もし、自分が無事に凱旋することができたならお寺を建て、仏像を造ってお礼をしますと大願をしたところ、無事に凱旋することができ、百済から弘済禪師を伴って帰国し「三谷寺を建てました」とあり、三谷寺と推定されています。現在寺院跡地は石を積み上げた塔のようなものがひっそりと立っています。入口に地元の子供達が描いた復元図が目をひきます。

寺町廃寺跡の発掘調査は昭和54年（1979）から4年間実施され、寺院の塔、金堂、講堂、回廊などの建物跡が見つかり、飛鳥時代から平安時代初めの寺院跡とわかりました。また、数多くの瓦や、土器なども出土しています。

- ・中国や百済の土木技術を取り入れた基礎工事
- ・百済の工法の可能性のある建物の基壇、金堂、塔、講堂の基壇は磚（レンガ状の焼き物）を積む工法
- ・百済の瓦とのつながりがある瓦軒丸瓦の文様の蓮華文に三角状突起のある水切瓦は百済の寺院の影響がうかがえる。
- ・法隆寺の再建に採用された設計手法がほぼ同時期に創建された三谷寺にも採用されて伽藍配置は法起寺式と呼ばれている。

寺町廃寺跡は建てられた由来が説話「日本霊異記」という資料よってわかった極めて貴重な古代寺院跡として国の史跡に指定されています。

奈良時代になぜこの地に壮大な寺院が建てられたのか謎ですが、馬洗川が近くに流れており、出雲、吉備をつなぐ古代道があったのではと考えられます。当時に思いをはせて、臨地研修予定の見学をすべて終え帰路につきます。予定時刻より少し遅くなりましたが午後5時前に無事鏡山駐車場に到着しました。

天候にも恵まれ彼岸花が三次盆地の田園地帯に美しく揺れている良い季節に三次を訪れることができ何よりだったと思います。また、参加いただいた皆様の御協力により無事、研修を終えることができ、心より感謝申し上げます。

案内と説明をしてくださった「みよし風土記

の丘」学芸員の平川氏、多忙の中、お話をして下さった「照林坊」23代住職明山氏から三次の歴史と文化の一端を見聞でき心よりお礼申し上げます。



【八本松探訪12】

軍事施設 1 原村演習場 (1/2)

天野 浩一郎

1. “平五郎原” が陸軍演習場になったきっかけ

原村の田中勘四郎氏が明治10年（1877）に広島鎮台に入隊し西高屋村石内原で演習していた時、原村に演習に好適な地があることを上官に告げ、関係者が平五郎原を視察しました。

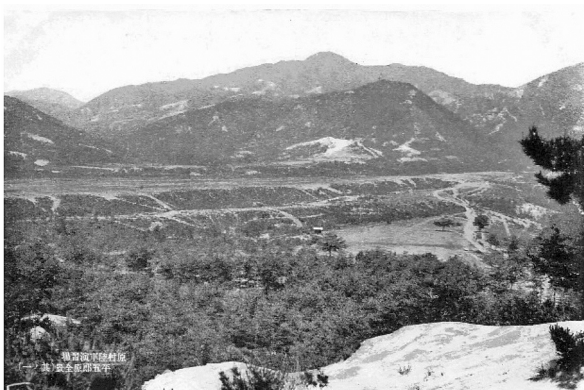
翌明治11年に陸軍が村有林であった平五郎原で初めて演習を行います。

【参考】広島鎮台：明治6年から明治21年まであった日本陸軍の部隊で、広島に本営を置き中国地方西部と四国地方を管轄。後に第五師団となる。

2. “平五郎原” 買上げの経緯

明治13年、広島鎮台は砲兵敷地の見込みについて検査し、戸長の承諾を得て将校など67名と馬47頭が原村に宿泊します。原村の村会議員も買上げについて評議を始めます。

紆余曲折を経て、明治16年に平五郎原が買上げになりました。



平五郎原（写真：菅野晃行氏提供）

面積＝64町7反4畝26歩

買上げ金額＝2331円80銭7厘（1銭2厘／坪）尚、広島鎮台は“大町原”を買い上げる交渉を要望しましたが、地元は平五郎原買上げの経験からか交渉に応じませんでした。

【参考】明治時代と現在のお金の換算は対象の物価によって異なりますが、概略4000～20000倍のようです。

3. ～明治28年北部兵舎建設の演習場

①明治18年3月、射的演習線内の居住者26軒の家族、牛馬が一時立退きとなりました。

その後、射的の方向・区域により住民は一時立退料をもらって度々立退きを行います。

一時立退き料＝2～5銭／日・人

②同年、広島鎮台は軍用道路を築調し、軍用倉庫を建設します。それらの工事は通常の金額で村民が請負いました。



姫が池付近の行軍（写真：蔵楽知昭氏提供）

③同年、歩兵第5連隊の2泊行軍演習で140名が当村に出張します。

村民は、兵士たちの1日3食の食事と宿泊などを賄いました。費用は14銭／人で、精米6合／人が支給されました。献立は

朝飯：平・汁・皿・漬物

昼飯：弁当・菜とも・漬物

夕飯：中皿・平・汁・皿・漬物

【参考】行軍：軍隊が隊列を組んで遠距離を移動するもので、鍛錬が目的で30kgの重い軍装で難路を行進しました。奥海田→熊野跡→吉川→原、瀬野→一貫田→本峠→原などのコースを行進し、道なき道の水丸峠も超えたようです。

夕暮れに原村に到着し、宿主は打ち揃って出迎え案内して家に帰ります。家でまず用意していた炒り豆や湯茶で労をねぎらうのが普通だったようです。

④明治20年、「賀茂郡86ヶ村連合陸海軍待遇規約」が制定されました。主なものは

- ・演習行軍の節、軍隊に敬礼を表し、兵士の宿泊を受けた際、門前に提灯を点ずる。
- ・行軍の際、路傍または坂道の頂上に湯水ある

いは茶を備える。

- ・本規約に必要な経費は86か村の有志が負担し、各戸4厘の目安で徴収する。

⑤明治27年（1894）日清戦争始まり、これに伴い第五師団の演習も激しくなりました。



塹壕内の歩兵たち（写真：蔵楽知昭氏提供）

演習場はあっても部隊の宿泊は民間農家を利用していただけ、大変不便を感じていました。そのため明治28年、前長沢陸軍用地内に兵舎5棟、付属建物5棟を建設しました（北部兵舎）。

4. ～太平洋戦争終戦の演習場

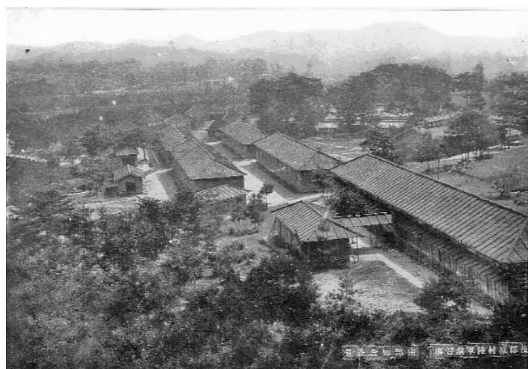
①明治32年、行軍演習の際軍人を優遇する「県訓令」35項目が告示されました。

“行軍演習に際し、人馬の衛生、被服の保存もしくは糧食の運搬、兵員の休養等について地方民が協力する”など

②明治37年（1904）日露戦争が始まります。

③明治38年、八本松～原村演習場の道路が3.6m幅に拡張されました。（真鍋道路と呼ばれる）

④明治40年広島西練兵場の野戦病院を移転し、南部兵舎を建設しました。その敷地6町6反8畝26歩は地元民が献納しました。



南部兵舎（写真：菅野晃行氏提供）

⑤大正5年（1916）当時の演習場

- ・演習場及び敷地の総面積＝51万7554坪
- ・建物＝南部兵舎、北部兵舎、本部舎、厩舎、浴所、調理所、弾薬庫、倉庫など
- ・使用部隊＝広島諸部隊、福山歩兵連隊、松山歩兵連隊、海軍兵学校など（「賀茂郡志」よ

り）

⑥太平洋戦争が激しい頃、東京方面出身者の武蔵部隊が南北兵舎に駐屯し、訓練に励みました。

空襲を受ける時期になると、約60cm×90cm×90cmの小退避壕（タコツボ）を数千も築造し、かなりの人数が入る横穴式の大退避壕も数個築造しました。

暁部隊は、食料が不足勝ちなのでゴルフ場を開墾し、ジャガイモなどの野菜作り、養鶏、養豚、木炭製造などに専念します。

（参考文献：「原村史」他）

グループ研究会ご案内

第281回 古文書研究会

と き 12月19日(火) 13:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

テキスト 「村の事件（其の壺）④」

第180回 石造物研究会

と き 12月19日(火) 9:00～

ところ 市役所北館 市民協働センター

内 容 第3回石造物探訪会資料検討

第181回 四日市町並研究会

と き 12月12日(火) 13:30～

ところ 歴史広場 吟古館

「酒都西條」編集作業

山城探訪会

12月はお休みします。

原爆資料保存研究会

と き 12月21日(木) 14:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

12月の図書室開放

と き 12月15日(金) 13:00～15:00

ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第592号

令和5年（2023）12月5日発行
編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235

E-mail:akataku@d4.dion.ne.jp

事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234

E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303

E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp